

家畜感染症学会会員の皆様へ

学会会員の皆様、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により生活環境が大きく変わってしまったなかで、いかがお過ごしでしょうか？ これまでに経験したことがない社会生活を強いられ、皆様も想像以上のストレスを感じていらっしゃる事とお察し申し上げます。

さて、COVID-19の影響は、ご存じの通り学会運営にまで及んでおります。皆様より大きな期待を寄せられていた、6月開催予定の第10回家畜感染症学会シンポジウム、15周年記念大会（於、東北大学）は、感染拡大防止の観点から中止せざるを得ませんでした。役員ならびに事務局も大変期待していたわけですが、苦渋の決断となりました。もちろん、それは他の学会でも同様であり、半年あるいはそれ以上の間、対面活動の中止を余儀なくされております。12月半ばに予定されております、本学会の第10回学術集会は、何としても開催したいと意気込んでおりますが、今後の状況を注視しながら、然るべき時期にその可否を決定したいと思っております。

このような中、各方面の先生方より、学会運営に対する励ましのお言葉を頂戴しております。また、学会誌への投稿もいただき、合併号とはなりましたが、無事発刊できたことに感謝したいと思います。感染症をテーマとする本学会としては、コロナ禍に負けず、皆様とともに今後の活動を活性化したいと考えているところです。残念ながら、本年度の通常総会は委任の形を取らせていただきましたが、これを機会に多くの会員の方々よりwebにて、学会運営に対するご意見やご要望をお聞かせ願えれば幸いと存じます。

COVID-19の収束には、これからしばらく時間を要することは間違いなさそうです。季節の移り変わりとは無関係に、第2波、第3波が襲ってくる可能性も指摘されております。このような状況ではございますが、学会で再会できる日を心底楽しみにしております。皆様、必ずお元気で。

家畜感染症学会
会長 加藤敏英